

作業療法教育における OSCE の紹介

茨城県立医療大学保健医療学部作業療法学科
鈴木孝治 伊藤文香 本学作業療法学科教員

茨城県立医療大学は、2004 年度より文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」(特色 GP) を実施しており、専門科目の実技試験とは異なる実践に即した総合的な技術確認として OSCE (Objective Structured Clinical Examination) の導入を試みている。作業療法学科の OSCE の基本理念は、学生が教育を通して習得した作業療法介入時の技術と知識に関する Minimal Essentials を、まず総合臨床実習前に確認し、さらに臨床実習後に再確認することにより、卒業時に作業療法学の臨床レベルを保証することである。

総合臨床実習前の 3 月に行った Basic OSCE では、「評価」に焦点を当て 8 課題を設定した。

総合臨床実習終了後の 4 年次の夏休みの Advanced OSCE では、卒業に値する技術内容の確認を目的に作業療法介入に焦点を当てた内容で、5 課題を設定した。

今回、フィードバックの有効性の向上が確認でき、総合実習科目の成績への反映、外部評価者・模擬患者の導入、評価の統一、大学と実習施設との連携が課題としてあげられた。